

質問

悪性リンパ腫と診断を受け、抗がん剤治療を受けることになります。副作用で感染症にかかりやすくなると聞きました。どんなことに注意すればいいですか？

抗がん剤治療中の感染症対策



尾形 美子

徳島大学病院看護部
がん看護専門看護師

回答

体の中に
ある骨髄で

は、白血球、赤血球、血小板という血液の成分が作られています。抗がん剤治療を行うと血液を作り出す機能が阻害され、正常な血液ができなくなっています。これを骨髄抑制といいます。

白血球には、体の中に侵入してくる細菌やウイルスなどの異物を排除する役割があります。白血球の一種である好中球は細菌などが侵入すると、最初に集まって攻撃し、排除しようとする働きがあります。抗がん剤の種類や個人差もありますが、抗がん剤投与後1～2週間ぐらいに好中球数が最も少なくなります。好中球が減っている時に感染症を起こすと重症となる場合もあるため、

日頃から感染から身を守る生活習慣を身に付けて

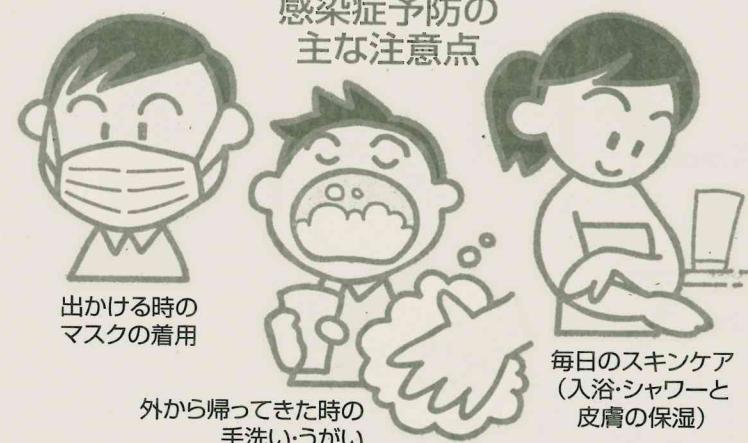
がん何でも Q&A

おくことが大切です。風邪をひいている人の面会も制限します。虫歯や歯周病があると感染症を起こしやすいため、治療前には歯科を受診しておきましょう。徳島大

学病院では、口腔管理センターと連携し、入院時に受診してもらっています。また、食事や環境にも

医療スタッフも、白血球や好中球の推移を常に把握し、感染症の予防や発症時の対応を速やかに行っています。

好中球が減少している時は、皮膚、口、腸管、肛門部、陰部など体のどの部位でも感染症を起こす可能性があるため、感染していないか注意深く観察してください。発熱など気になることがありますれば、速やかに医師や看護師に報告しましょう。



イラスト・権原 忍

発熱時は医師に報告

(第4土曜掲載)

がんに関する質問は
徳島がん対策センター
<電088(634)6442>
(平日午前8時半から午後5時まで)へ。